

供養について

近年、お墓参りをされる方々が多くなってきました。大変ありがたいことです。「先祖を敬い、供養されることは、とりもなおさず、お参りされる方々の心をなぐさめ、心を豊かにしてくれるばかりで無く、必ず「先祖の知恵や得がたい教えをいたたくことが出来るでしょう。お参りした後の心すがすがしい気分は、明日への素晴らしい力となり、人生への後押しとなることでしょう。」

「先祖のご供養をされるには、三つの条件が具備していることが大切です。

その第一は、供養は形に表さなければなりません。ことです。よく世間で気持ちさえあれば形式などどうでも良いという人がいますが、それは間違った考え方で、本当に思う気持ちが強ければ強いほど形に表さずにはられません。「仏壇のお花が

枯れていたり、二年忌の供養を忘れていたので、は残された家族としても、人としての務めにもそむくことになりましよう。

第二、「何事も心がこもっていないければ、供養にはならないことです。『恭敬供養』という言葉があり、これは敬い尊ぶ心を供養に表したもので、どんな立派な、そして高価な物をお供えしようが、まごころのこもった物でなかったら本當の供養にはなりません。

第三に、供養は私達の生活に

平成22年度 年 回 忌 表		
年回忌	没年 (西暦)	
1 周忌	平成 21 年	2009 年
3 回忌	平成 20 年	2008 年
7 回忌	平成 16 年	2004 年
13 回忌	平成 10 年	1998 年
17 回忌	平成 6 年	1994 年
23 回忌	昭和 63 年	1998 年
25 回忌	昭和 61 年	1986 年
27 回忌	昭和 59 年	1984 年
33 回忌	昭和 53 年	1978 年
37 回忌	昭和 49 年	1974 年
50 回忌	昭和 36 年	1961 年

常楽寺
だより
22.1.12

常楽寺御公報

一月三日(水曜日)午後三時より

活かしてこそ価値が出てくるものです。仏様とは、悟りを開かれ、大いなる人生の道を行んでこられた方で、私たちの生きる道筋を教へ導いてくださった方です。今は「き」先祖様の生前の生き様は、私たちに限りなく多くの教えを残し、文化や伝統を残し、今日まで多くの遺産を残して下さっています。私達の今日の生活は、その「先祖の残した福の上に成り立っているのです。」「先祖様の深い恩愛を感じる時、私たちは供養の心を起こさずにはいられません。」

仏様に廻向をほめていわれますが、その「廻」廻(わ)は、供養の功德が巡りめぐって、やがて自分の元へ回ってまいります。一度、樹木が葉を落とし、その葉が大地を肥やし、やがて樹木の栄養として、樹木を育てるように、「先祖の供養は、やがて自分のもとにその恵みや、恩恵をもたらしていくるものなのです。」

例年のように、一月三日(水曜日)午後三時から、菩提寺常楽寺の本堂で「節分会追継厄除法要」を行います。追継の豆まきや、楽しい福引も準備し、皆さんをお待ちしています。「家族揃って」参加いただき、子どもさんたちにも楽しい思い出を作ってください。

一月四日は「立春」、古来から春を迎える一つの行事として、男子は、四歳、十五歳、四十歳、六十一歳、女子は、四歳、十九歳、三十三歳、三十七歳、六十一歳を厄年として、わざわいを取り除いて幸せな年に願って、「厄払い」をしてきました。常楽寺でも「厄除護摩」もいたします。

「厄除護摩札」は、五千円、升の不要の方は三千円で、また、「節分会守護札」は、千円でお受けしています。どうぞ「参加下さい。」